

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100774		
法人名	社会福祉法人 墨友会		
事業所名	グループホーム サンヴェール大垣		
所在地	岐阜県大垣市東町4丁目43-2		
自己評価作成日	令和4年7月7日	評価結果市町村受理日	令和4年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index_php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoQd=2172100774-00&ServiceQd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和4年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは4つの事業体(特養・ショートステイ・デイサービス・居宅介護支援事業所)と併設されている強みを生かし、生活支援・医療サービスに加え、行事やクラブ活動、リハビリ等連携して支援できる運営体制を整えています。ご本人・ご家族に安心・安全・快適を実感できる生活空間の整備、スタッフ間のきめ細かい情報共有により、その方らしく生活できる支援を実践しております。起床から就寝まで、無理なく、個々に合わせた自然な流れの日常生活が送れるよう支援しています。また隣接のグループホームとは研修会などを毎年開催して連携を深め、情報交換等を行っています。施設内にある喫茶「サンカフェ」や「屋内足湯施設」の利用ではご本人・スタッフの気分転換ができ、健康増進にも役立ち好評を得ています。施設敷地の共有の畑では野菜・果物の収穫による季節感を楽しみ、食事時に提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を基に毎年事業所独自の目標を立て、当年の実践を振り返り反省点を分析し、職員で話し合い次年度の目標を立てている。利用者のやりたいこと、できることが維持できるように、併設施設の専門職とも連携しリハビリ、レクリエーションやクラブ活動を通して楽しい生活への支援に心掛けている。コロナ禍で地域との交流や外出制限のなかでも、季節の野菜や果実を収穫できるようにボランティアで栽培してくれる住民との触れあいを大切にしている。職員の意見や要望から記録物の電子化、業務内容の見直し、休憩時間の確保、ユニホームの導入等で職場環境の改善につなげている。家庭事情に合わせた働き方や得意分野を活かして働きやすい職場にしている。利用者、家族、職員との旅行と一緒に楽しめる雰囲気のある事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・スローガンはスタッフルームに掲示し、いつでも確認できるようにしている。年度初めにはユニット会議でも確認を行い、理念に沿った取り組み目標を立て、取り組みの振り返りも行っている。	理念や年度目標を見やすい場所に掲示し、日々のケアで確認している。名札の裏に理念とスローガンを記載し、いつでも意識づけて実践できるように努めている。会議で話し合い、振り返りと次年度目標を定めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設事業所内のカフェや足湯、地域交流室を地域にも開放し、利用者様との交流の場にもなるよう努力を行っている。また介護者の会や近隣企業の施設見学を積極的に受け入れている（現在はコロナ禍で見合わせているが感染対策を行いながら徐々に再開する予定）	感染症対策に配慮しつつ、散歩したりカフェを利用したり、住民が世話してくれる畑で野菜や果実をとりに出掛けたりしている。一般企業の職業講話に出掛けたり、高校や大学の実習生を受け入れている。住民と一緒に祭や小中学生との交流を模索している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設施設であることから、施設内事業所、外部事業所との接触機会が多いので努めて連携できるよう心掛けている。また1階サンカカフェは直接的な地域窓口として自然な交流を促し、直接・間接的な支援・実践を試みている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回利用者状況・行事など、取り組み事項の内容について報告し、各委員から助言・提案を頂いている。自治会長の協力を仰ぎながら会議により多くの地域の人が気軽に参加して頂けるように働きかけを行っている。	コロナ禍で書面会議とし、事業所の現状、活動や事故報告をして、メンバーから意見をもらっている。コロナ禍での日常の楽しみ方の意見を得て、運営に活かしている。短時間でも直接的な会議を開催できる方法を模索中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期報告に加え、行事案内の通知を通して連絡・意見交換ができるようにしている。代表者は市に出向き、市町村との関係を良好に保つように努め、近隣グループホームとの交流内容について報告している。	最近はメールや電話ですませる事も多いが、書類提出時は市に出向き、事業所の実情を伝えている。市主催の会議や研修はオンラインにて参加している。感染症対策用品、センサーつき介護ベッド等を購入し、市補助金を活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない方針であり、指針・マニュアルも整備している。併設施設を含めた全事業体で身体拘束廃止委員会を設置、年2回以上の施設内研修を行っている。身体拘束回避の理解、知識習得への取り組みを継続している。	併設施設を自由に行き来できるように玄関は常時開放し、職員と連携し所在を確認できるようにしている。毎月の会議で事故・ヒヤリハットを確認し、言葉遣いも含めて拘束しないケアに努めている。委員会を3ヶ月に1回開催し、年2回の研修も実施しているが研修の記録がされていない。	コロナ禍で職員をグループで分け、DVD視聴やグループワーク等で工夫して研修を実施しているが、内容、実施日や参加者等を記し、身体拘束への理解が更に向上する事を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルに基づき、施設内の事故対策委員会による研修などを行い、具体的にどんな行為が虐待につながるのかなど、知識の習得に努め実践している。		

グループホーム サンヴェール大垣

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当グループホームで成年後見制度が必要なケースは今までなかったが、制度の周知はグループホーム会議内で資料配布したり、ホーム内掲示などを行い、意識向上を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談員より時間をかけて、納得頂けるまで丁寧な質問を行い、不明点が生じないように心掛けている。契約時には事業所の運営理念やユニット内の様子、サービス対応可能範囲についてなど説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活のご利用者様の言動から色々な思いや考えを汲み取り利用者様本位のケアを心掛けている。またご家族の面会時には生活の様子をお伝えし、何でも言って頂ける雰囲気づくりに努めている。頂いた要望・意見はユニット会議などで話し合いケアや施設運営に反映させている。	ズーム面会の違和感から人数と時間制限して、エントランスでの面会をしている。面会時や受診時及び、電話や手紙にて利用者の様子を伝え、意見や要望を聞いている。管理者や相談員が意見や要望を聞く事は多いが、職員間で連携し意見を反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者はM勤ミーティングや日常勤務の中で職員の意見を聞き、日頃からコミュニケーションを図るよう心掛けて意見が伝わりやすい環境づくりに努めている。また業務改善委員会にて、業務改善アンケートを実施しており、改善案の検討、実施をしている。	日常業務、会議やアンケートで意見を聞き、会議で話し合い検討している。記録物の電子化、業務内容の見直し、休憩時間の確保、ユニホームの導入等の改善につなげている。家庭事情に合わせた働き方や得意分野を活かした分担にして、働きやすい職場にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフの得意分野(料理・お菓子作り・園芸・折り紙など)を活かせる職場環境を整え、ご利用者とともに楽しみながらやりがいと向上心を持って業務ができるよう勤務調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の介護職員キャリアパスに基づいて、階層別の研修を計画、受講できるように支援している。(職員の介護技術向上・知識習得の機会を設けている。)他にも全体で、委員会内研修などを行い、勉強する機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内研修だけではなく、外部研修にも積極的に参加をしている。介護支援専門員研修、認知症介護実践者研修などに参加し、他法人の職員と意見交換ができる研修への参加を促し、現場でのケアに活かしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活状況を把握し、本人との信頼関係が築ける様本人の思い・希望・不安をしっかり受け止め、ご家族様とも連携を取りながら、常にご利用者の居心地の良い生活の場となるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労、困っていた事、不安、要望などに事業所がどのような対応ができるのかを事前に話し合い、ご家族を理解しながら密接な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談の話し合いで、ご本人や家族が今必要としている支援を見極め、施設相談員・医師・看護師との連携を取り、困難な問題に対しても速やかに対応が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは利用者と共に生活する者としてお互い支え合い、思い合える関係作りに努めている。人生の先輩でもある利用者様から知恵や技を教えて頂くことも多く、意見を活かしながらお互いに感謝する関係が築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会時や電話にて日常の様子を報告し、ご家族の意見や思いを十分に受け止め、共に同じ思いで支え合えるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年1回行われる家族会やサンヴェール祭りに家族様をはじめ馴染みのある方にも来て頂け、関係が途切れないように援助を行っている。また過去にはお孫様の結婚式に出席されたり、自宅へ外出される際の援助も行っている。	馴染みの人の訪問は少なくなっているが、親族や家族の面会を叶えている。法要・墓参・自宅への送迎、馴染みの店の買い物、家族への電話の取り次ぎ、年賀状の宛名の確認等で馴染みの関係が途切れないようにしている。併設施設に移動した利用者と話したりお茶を飲んだりできるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格、利用者様同士の相性・関係を把握し、その日の状態や気分を注意深く観察しながら、無理強いはず、共に暮らす仲間として穏やかな関係が築ける様工夫している。		

グループホーム サンヴェール大垣

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られてもお互い行き来したり、行事にはお誘いするなど関係継続に努めている。またご本人の情報提供を行い、新しい事業所での生活に役立ててもらえるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずはご利用者が自分の思いを言いやすい環境づくりを心掛けている。コミュニケーションの場を多くとりながらその思いを理解し、申し送り時に情報共有したり、会議ではその人に合った支援方法を検討している。	本人の言葉で思いや要望を言ってもらえるように、居室で聞いたり側に寄り添い急かせず聞いている。飲み物・おやつ・洋服の選択、クラブへの参加、レクリエーションの内容等は、その人の意向に合わせている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリーやアセスメント表などからスタッフ全員で情報を共有して把握に努めている。またご本人・家族様との会話から必要事項を見い出して暮らしやすい環境に近づけるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分のペースで安心して過ごして頂ける環境づくりを心掛けている。また出来る事、得意な事を把握し、活かしていけるケアを検討している。状態変化があればスタッフ間で情報共有し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族の意向をもとにアセスメントし、会議での話し合いで職員の意見を取り入れながら介護計画を作成している。また状態変化などを3か月ごとにユニット会議で評価し、それをもとにプラン見直しを行っている。	本人や家族の希望は事前に聞き、医師や看護師の意見も参考に介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングし、6ヶ月で見直ししている。毎月の会議で全員の状態確認と話し合いにて、必要時は見直ししている。個別の介護記録を電子化し、職員が把握しやすくしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録を電子化し、毎日の様子やケアの実践・結果・気づきなどを入力し職員全員が目を通すことで、利用者様の状態を継続的に把握している。記録をもとに次のケアへ繋げていけるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様ご家族の要望で、家族に代わり受診、自宅への送迎など柔軟な支援を行っている。又ホーム内で解決できない問題については、併設施設内で相談・話し合いを行いホーム内の枠を超えた支援ができるように努めている。		

グループホーム サンヴェール大垣

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営会議の実施、地域の老人会・子供会・少年団などの活動に地域交流室を開放し、地域とのつながりを大切にしている。また当施設ホームページにて活動報告を行っている(コロナ禍により見合わせているが、状況をみながら徐々に再開していく予定)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外のかかりつけ医受診は、本人の健康状態を口頭や文面でお伝えした上で、ご家族同行での支援としている。受診結果は看護師が家族から報告を聞き、職員へ申し送りを行い連携している。	かかりつけ医の受診は家族の同行とし、口頭又は書面で状態を伝え、受診後に報告を受けている。希望で歯科医の訪問診療や併設施設の理学療法士や作業療法士のリハビリを利用する人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々利用者様の状態を観察し、訴えにも傾聴しながら、異常があればすぐに看護師に報告を行っている。夜間における連携体制もできており、迅速に看護や受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院までの体調変化など情報提供を詳細に行い入院時には病院見舞いなどの本人支援に加え、本人家族との話し合い・病院との連携を図りながら、より良い治療を行い、早期退院に向けた支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人家族の希望を伺いながら医師・看護師・相談員・リーダーが話し合い、出来る限り希望に沿った支援ができるよう努めている。職員はターミナルケア研修を受けているが、本人の苦痛や希望、ケアの限界などを考慮しながら病院や併設施設での支援に切り替えている。	本人や家族の希望に合わせて看取りをしている。状態に合わせて医師から家族に説明し、意向に合わせている。定期的に栄養状態を確認し、栄養剤の補給や食事形態に配慮している。栄養士や看護師も含めて話し合い、情報を共有し看取りプランで支援している。家族の宿泊希望も受け、一緒に看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルを全職員が周知し、迅速な行動がとれるよう職員同士のコミュニケーションを密にしている。また看護師や外部の講師から器具の使い方や応急手当の研修を受け、技術習得を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と合同で夜間想定を含む年2回の消火器・避難訓練を行っている。また災害発生に備えた食料・飲料水などを備蓄し、市の避難指定所にもなっている。	火災や水害想定避難訓練を併設施設とも連携し移動手段等も考慮しながら実施している。非常時に備え感染症対策も盛り込みBCPを作成し、委員会を中心に検討している。訓練時に住民の協力が得られていない。	福祉避難所として備蓄等の対策もできているが、日頃から地域との協力体制が得られるような働きかけが望まれる。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いを大切にし、尊敬・誇りを損ねない言葉がけ・対応を行っている。入浴・排泄・更衣などにおいては、プライバシーを尊重し環境整備を行い、配慮している。	接遇研修を受け会議でも話し合い、自尊心を損ねない言葉遣いに心掛けている。呼び名は〇〇さん、表札は希望に合わせ取り付けている。居室や浴室の入口、収納棚等に手作りの暖簾をかけ、プライバシーへの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者とのコミュニケーション時間を多く持つことで本人の思いや興味のあることなど、希望に沿った支援を行っている。また自己決定できる状況を作り、生き生きと生活して頂ける環境づくりにスタッフ全員で努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりの体調を十分に理解し、日々の表情やしぐさを見守りながら、希望を聞いたり興味が湧く事柄にお誘いするなど、無理なく思い通りに過ごして頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所前から使用のスキングッズを継続利用してもらい、出来る限り着る服は自己選択を促している。メイクアップやネイルアートはボランティアの方に整容して頂く機会を持ち、生活感にメリハリを持って頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・夕食は併施設で調理・配食されるが、昼食作りをユニットで行うことがある。一緒に調理を手伝って頂いたり、台拭きや配膳をして頂いている。またベランダに野菜を植えて収穫したものを一品に加えたり、干し柿と一緒に作るなど、食の楽しみの提供を行っている。	昼食は利用者の希望や畑で収穫した野菜を使い、一緒に作っている。食器を変えたりワンプレートにしたり、デザートを加えたりして楽しめるように目先を変える工夫をしている。誕生会やおやつ作りは、希望に合わせできることを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分摂取量を記録し、一人ひとりの健康状態や変化の把握に努めている。また看護師や管理栄養士の助言を貰いながら、必要に応じて食事・水分量の調整、栄養補助食品や自助具の利用、介助方法の工夫などを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア専用の歯ブラシ・ティッシュを活用しながら一人ひとりの口腔内の状態に合わせた介助を行っている。また細部の口腔ケアについては、本人家族と相談した上で定期往診でみえる歯科の先生にお願いし、清潔保持に努めている。		

グループホーム サンヴェール大垣

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りおむつの使用を必要最小限にし、個々のパターンや兆候に合わせてトイレ誘導を行っている。またズボンの上げ下げなど、できるところはやって頂けるよう見守るなど自立にむけた支援を行っている。	トイレ排泄ができるように声かけや見守りし、低位置から3ヶ所にお手洗いの表示を掲げて自立できるようにしている。二人介助の人や夜間ポータブルトイレを使用しても、日中はトイレ排泄の支援をしリハビリパンツから布パンツに改善した人がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設内外の散歩を行い、体を動かす機会を作っている。また、便秘傾向のある利用者様には、バナナ・ヨーグルト・牛乳などを朝食やおやつに多く取り入れ、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週3回屋間の入浴としており、体調・希望・外出に合わせて他の時間・曜日の入浴を行っている。季節に合わせて柚子湯など好きな音楽をかけながら、個人の希望に合わせてゆったりと入浴を楽しんで頂く工夫をしている。	一人ひとり湯を入れ換え、希望のシャンプーやボディソープ、入浴剤を使用する等、要望に合わせている。ゆっくり話をしたり音楽を流したり歌を歌ったりして楽しい入浴にしている。嫌がる人には、声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	随所にひと休みできるソファをリビングに配置し、リラックスして過ごして頂いている。夜間不眠傾向のある方にはテレビ・CD視聴・話し相手などその人に合わせて環境整備を行い、安心して自然な入眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイルにて全職員がいつでも薬の内容を把握できるようにしている。また毎日の心身の状況変化を観察・記録し、看護師・家族と連携をとりながら服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケを楽しむ方、職員と一緒に洗濯たみ・新聞整理などの手伝いをして下さる方、料理・生け花などご利用様が個別に楽しみや役割を持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の気分転換につながるよう、季節に合わせた花見、花火、飲食店などの外出支援を行っている。また特養の利用者様と一緒に一泊旅行へ出かけたり、なばなの里に外出し、楽しんで頂いている(コロナ禍の為見合わせているが、状況をみながら徐々に再開していきたい)	旅行や地域交流となる外出は難しい状況であるが、買い物、墓参、法要や花見等に出掛けている。併設敷地内で足湯する、畑へ野菜や果実の収穫に行く等、気分転換できるように散歩を兼ねた外出をしている。ベランダでの散歩、プランターの水やりや草取り等で外気に触れる機会を作っている。	

グループホーム サンヴェール大垣

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合いながら、自己管理の可能な方には財布を手元に持って頂いている。また利用者様の希望や力に応じて、買い物時は本人がお金を所持して支払いする機会を持てるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙のやり取りができるよう支援を行い、ご家族や大切な人との触れ合いを大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	随所に生け花を飾り、ベランダには野菜・花のプランターを置くなど生活感・季節感のある空間づくりに努めている。また玄関にポストや下駄箱を、居間には仏壇やソファを置き、馴染みのある家庭的な雰囲気づくりを心掛けている。	季節の飾り物を置いたり生け花を飾ったり、利用者が作成したスノードームを置いたりしている。TVを見る、新聞・文庫本や雑誌を読む、新聞たみやゴミ箱作りをする等、自由に過ごせるようにしている。空気清浄機を設置し、日に3回の換気や頻回に消毒し感染症予防にも注意し居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格やそれぞれの相性、希望などを考慮して席や机の配置を工夫している。また壁の随所や窓際にソファを置くなどして、思い思いの場所で居心地良く過ごして頂けるよう環境整備を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビ・写真・ぬいぐるみ・本・小物類など在宅時から使用していた馴染みのあるものを持参して頂いている。転倒など安全面にも配慮した設置を行い、本人様が安心して居心地良く過ごして頂けるようにしている。	使い慣れた家具・寝具類・時計やラジオ等を持ち込み、誕生プレゼントや写真を飾ったりしている。座椅子やリクライニングイスに座り、TVを見る、ラジオを聞く、本を読む、日記を書く等で自分らしく過ごしている。空気清浄機を設置したり、低床ベッドにする等で居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	気づきを促す貼り紙をしたり、低床にして転倒を防ぐなど、ハード面だけに頼らず日々の安全に心掛け本人の状況をみながら環境整備・自立支援を行っている。		